

# 「考え、議論する道徳」の 授業づくりと評価について



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

# 内 容



はじめに ～道徳科の授業を振り返ってみましょう～

1 「特別の教科 道徳」

2 「道徳科」の授業づくり

3 教材分析

4 道徳科の評価

おわりに ～豊かな道徳授業を目指して～

はじめに

道徳科の授業を  
振り返って  
みましょう！



埼玉県中学校教育課程指導・評価資料（道徳）

平成30年3月

埼玉県教育委員会

【道徳授業の振り返りシート】

道徳の授業で行っていることに「○」を付けてみよう。

1	年間指導計画に基づいて計画的に実施している。	
2	事前準備を	ウ 共に考え、振り返り授業
3	本時	
4	ねらい	
5	生徒	
6	ノ	
7	生徒	
8	生徒	
9	指導	
10	教材	
11	生徒	
12	心構	
13	教材	
14	学習	
15	期末	

「考え、議論する道徳」を具現化するためには、生徒が自分の考えを出すのみでなく、お互いの考えを交流し、多様な視点からの考えに接しながら、自分の考えを深めていくような授業を展開する。助合いの形態については、固定化したり、形式化したりすることなく、生徒の実態や教材の特質に応じて、ペアや小グループでの話し合いや対論形式など効果を考慮し、変えて深める。

【共に考え、振り返り授業】  
 ○ 主眼点 誠実に考えて行動する 【A自主、自律】  
 ○ ねらい 自律的に判断することについて、主人公の取った行動を基に考えることを通じて、誠実について理解を深め、自己の利益に縛られることなく、誠実に行動する。

①	道徳
T	時間
W	時間
S1	時間
T	時間
S2	時間
T	時間
S3	時間
T	時間
S4	時間

第5 通知表、指導要録における評価

1 通知表と指導要録について  
 通常、学期又は年間を通して評価を記載するものには、通知表と指導要録の二つがある。学期ごとに通知表に評価し、それを踏まえて学年末に指導要録への評価を記載するという関係は、道徳も他教科等も同じである。

○ 通知表・・・公簿ではないが、多くの学校で作成しているもの。  
 ○ 指導要録・・・公簿であり、作成が義務付けられているもの。  
 ここであえて「道徳」という言葉をを用いたのは、「道徳科」と「道徳科を扱った道徳教育」の二つに関する評価があるためである。学校における道徳教育は、その要である道徳科を含むものであるが、評価に関しては、道徳科と道徳科以外の道徳教育を明確に分けて行う必要がある。以下に、通知表における道徳の評価と、指導要録における道徳の評価について、それぞれ詳しく説明する。

2 通知表について  
 通知表は、指導要録のように法令に定められている諸基準ではないため作成義務はないが、各学期の生徒一人一人の学習の成果や出席の状況、学校生活の様子などを、家庭に通知・連絡するものとして、多くの学校で作成している。

(1) 道徳科の評価  
 「道徳科の評価は、特別の教科化によって新たに行われるものである。」  
 平成20年改訂以前の学習指導要領における「道徳の時間」については、指導要録への評価記載がないため、通知表においても「道徳の時間」の評価欄を設けていない学校がほとんどであった。平成27年3月の学校教育法施行規則一部改正で、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として位置付けられたことにより、指導要録への記載がされることとなった。これに伴って、多くの学校が通知表においても道徳科の評価を記載するようになった。  
 なお、道徳科の評価を通知表に記載する場合には、評価について国が示す指導要録の記載に準拠することが基本となる。

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4)  
 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

一方、通知表の性質を踏まえ、生徒本人や保護者によい点や進歩の状況などが具体的に伝わることが重要となる。したがって、道徳科の評価は、以下の点に留意しながら生徒のよさを積極的に認め、励ます評価となるよう、各教師が創意工夫する。

ア 記入に際しての留意点

- 道徳科の評価欄であるため、道徳科の授業中のことについてのみ記述する。
  - 道徳科以外に様子については「所見欄」に記述し、道徳科の評価欄には記述しない。
  - 記述する内容は道徳科の授業中における学習活動に着目する。
  - 特に重要な視点は、「物事を多面的・多角的に考えている様子」と「道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」。
  - 大きくくりなまとまりを踏まえる。
  - 単位の学習の様子だけの記載では、大きくくりなまとまりを踏まえているとは言い難い。
  - 道徳性は評価しない。（例：様相である「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」も。）
  - 以下のような表現とならないようにする。
    - ～について、～という発言が見られたことから思いやりの気持ちが高まってきた。
    - 以前に比べて、友情を実現するための判断力が、だいぶ高まってきている。
    - ～の学習を通して、～規則を守ることの真の意義を理解できた。
    - 道徳的な心構は育ってきているので、今後は、実践していかうとする意欲も高まっていけるとよいでしょう。
- ※ 道徳科は道徳性の育成を期して行うものだが、道徳性が育ったかどうかは容易に判断できるものではないため、道徳性の評価は行わないこととしている。したがって、道徳性を評価しているとの誤解を招かない表記の仕方が求められる。

意見の発表が  
 なる。また、  
 返る授業時間  
 を比較した

②  
 (8) 生徒  
 効果的  
 と話し合  
 い期間は、  
 問となる  
 (9) 単に  
 授業の  
 いるとは  
 ができる  
 実証らを  
 (10) 自分  
 書く防  
 め、取り  
 見を書か  
 したがっ  
 ※ 書く  
 整理さ

# 1 「特別の教科 道徳」



第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、

- (1)道徳的諸価値についての理解を基に、
- (2)自己を見つめ、
- (3)物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、
- (4)自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## (1) 目標から読み取るポイント

①最終的な目標は、道徳教育と同じ、  
**道徳性の育成**

②児童生徒が道徳的価値を自覚できるよう  
**その過程を具体的に**示している

③「特別の教科 道徳」で育てる資質・能力  
→**道徳的な判断力、  
心情、実践意欲と態度**

## (1) 目標から読み取るポイント

④ 道徳科は、**道徳教育の要**

⑤ 小学校高学年の**指導との接続**を意識し、高等学校等における人間としての在り方生き方に関する教育に**見通しをもつて**

⑤と⑥は、中学校の解説の内容

⑥ **計画的に**進める



## (2) 内容におけるポイント



① 道徳教育の要は「**道徳科**」

② **系統性、発展性**を意識して  
指導できるように整理

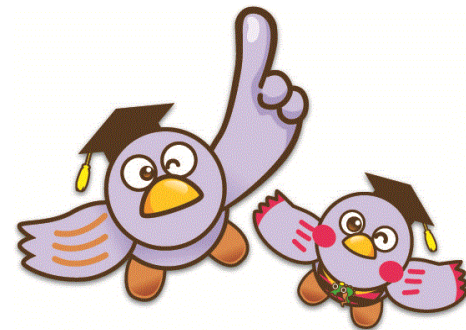
→ **小学校・中学校**ともに！

③ 新項目はズバリ、

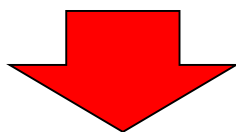
**現代社会を生きる上での課題**



## (2) 内容におけるポイント



教科化＝「**検定教科書**」の導入



よりよい指導法の確立

週一回の確実な実施

### (3) 「考え、議論する道徳」

# 考え、議論する道徳

主体的に  
自分との関わりで

多様な感じ方、考え方と  
出合い、交流する

自分の感じ方、  
考え方を明確にする

自分の感じ方、考え方  
をより明確にする

### (3) 「考え、議論する道徳」

道徳科における

「**主体的**・**対話的**で**深い学び**」

- **問題意識をもつ**
- **自分との関わりで捉えて考える**
- **多面的・多角的に考える**
- **自らを振り返る**
- **自己の（人間としての）生き方について考えを深める**

### (3) 「考え、議論する道徳」



「シーン」と  
なること  
恐れずに！

#### 主体的な学び

児童生徒が真剣に考えること

#### 対話的な学び

児童生徒が共に語り合うこと

#### 深い学び

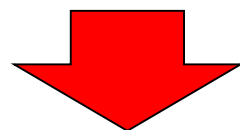
児童生徒が生き方について  
考えを深めること

### (3) 「考え、議論する道徳」



「考え、議論する道徳」へ！

今までだって取り組んできたのに…



より、**具体的**で**可視的**な成果が  
**早急**に求められている！

## (4) 質の高い多様な指導法(例)

「深い学び」「対話的な学び」  
「主体的な学び」の視点

- ① 読み物教材への自我関与が中心の学習
- ② 問題解決的な学習
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習

先人の優れた指導法

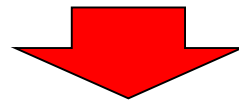
守破離



(5) 今、何をすべきか

## 授業力の向上

分かり切ったことを言わせたり書かせたり・・・  
読解指導のようなこと・・・



発達段階に応じた効果的な指導方法を  
「読む道徳」から「考え、議論する道徳」へ

教材

心情や考え方の読解  
→ここで止まる  
授業が多かった



登場人物が  
感じたこと  
考えたこと

この部分に切り込む  
授業が大切  
→価値に迫る発問を！

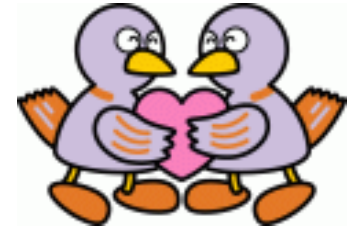
**道徳的価値**  
**考え方や生き方、信念**





## 2 「道徳科」の授業づくり

### (1) 工夫や手立て



何を伝えるか→何を考えさせるか  
何に気付かせたいのか

①心の中を問う発問を大切に

②登場人物の葛藤、変容、成長  
・・・心の中や何がきっかけなのか

③ 広がる発問、深まる発問、多様な返答や意識が期待できる発問

④ 「分からないふり」と「沈黙」

⑤ 書く活動のメリットとデメリット

⑥ 板書の工夫

⑦ プラス思考の「はひふへほ」の授業  
→ 教師の「あたたかな受け止め」



## 指導方法7つの工夫



詳しくは  
「解説」の  
第4章に！

- ア 教材を提示する工夫
- イ 発問の工夫
- ウ 話合いの工夫
- エ 書く活動の工夫
- オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫
- カ 板書を生かす工夫
- キ 説話の工夫

# 学習問題の類別・設定例

## 【道徳的価値そのものに関わる問題】

- ・「〇〇」とはどんなことだろうか
- ・「真の勇気」をもつために必要なことは何だろうか。

## 【教材に含まれる問題】

- ・手品師は、どんな思いで友の電話を聞いていたか
- ・よし子の行動は、どんなことが問題だったのか

# 学習問題の類別・設定例

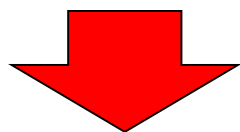
## 【社会などで見られる諸問題】

- ・ルールは、何のためにあるのだろうか
- ・生命は、どんなときに輝くのだろうか



## (2) 授業における発問のポイント

子供の心を動かし、多様な考えを引き出し、思考を深める。



道徳の授業でどんな発問が考えられるか？

## 共感的な発問

主人公の気持ちを問う

主人公の考えの中身を問う

- ・〇〇は今、どんな気持ちだろうか
- ・〇〇はどんなことを考えているか
- ・〇〇の心の中はどうか

## 分析的な発問

行為や内容の意味を問う  
その原因や理由について問う

- 本当の□□とは何だろう
- ○○の行動を支えたものは何なのか
- ○○がそうしたのとはなぜだろうか



## 投影的な発問

主人公に自己置換させて問う  
迷いや葛藤等のなかで選択的に問う

- ・～のとき、自分ならどうするか
- ・自分が〇〇ならどう考えるか
- ・自分は〇〇のようにできるか

## 批判的な発問

主人公やお話に対する考えを  
問う

子供自身の考えや生き方を問う

- ・〇〇がしたことをどう思うか
- ・この□□(価値)をどう考えるか
- ・□□の話について納得できるか

## どちらが道徳科の学びでしょうか？

- ・登場人物の気持ちに共感する。

~しているとき、なんだかおもしろくないAさんは、どんな気持ちでしょうか。

- ・登場人物に共感して気持ちを考える。

…の立たされた状況

これまでの自分の体験から感じたり、考えたりしたことを基にして…

~しているとき、Aさんは、どんな気持ちでしょうか。

### 3 教材分析



◎「**ねらいとする道徳的価値**」  
で教材を読み込んでいく。

◎教材の山場をつかむ。

→登場人物の葛藤、変容、成長

## ( 1 ) 教材分析の方法



- ①ねらいとする道徳的価値で教材を読む。
- ②最も話し合わせたい場面を特定する。
- ③話合いのきっかけを効果的に投げかけるための発問を考える。
- ④話合いにおける児童生徒の反応を予想する。
- ⑤話合いの前提となる場面・条件を明らかにし、前後の発問を検討する。

## (2) 中心発問における予想される児童生徒の反応

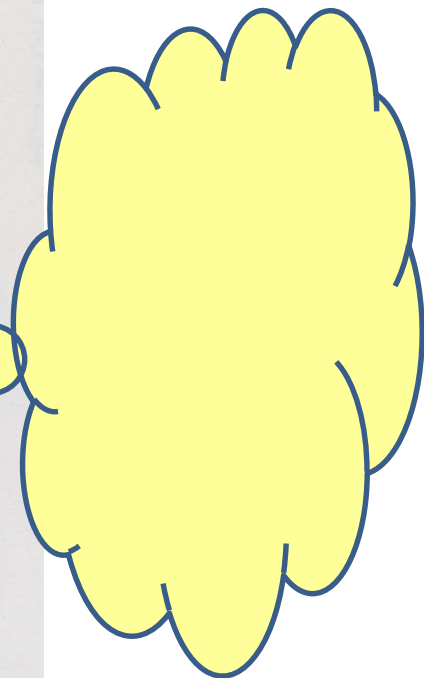
○「**行為**」⇒「**動機**」でさぐる

自律：～せずにはいられないから。

社会律：みんなに言われるから。

他律：ほめられたい・怒られるから。

無律：やっていられないから。



おばあさんの様子を見た私は、  
どんな気持ちだったでしょうか。



# 行為

声をかけよう

声をかけない  
かけられない

自律  
社会律  
他律  
無律

- ・困っている人を見てもらえないから。
- ・助けるべきだから。
- ・人が見ているから。
- ・あとで親に怒られるから。

# + 動機 -

自律  
社会律  
他律  
無律

- ・声をかけたいけど恥ずかしいから。
- ・断られたら・・・。
- ・勇気がないから。
- ・疲れているから。
- ・自分とは何の関係もない人だから。



3 心の涼風

「また、誠に負けたか。」

康雄は悔しそうにつぶやいた。三年生の最後の大会が近いので、皆がそれぞれの専門種目を計測していた。その中で、主に一〇〇メートル走と一一〇メートルハードルを専門とする康雄は、ハードルのタイムを何本か取っていた。

誠とは一年生の頃から親友であり、よきライバルでもあるが、康雄はまだ一度も勝つたことがない。

「康雄、タイムよくなってるよ。この調子なら今度の大会、いい記録が出せそうだね。」

誠は康雄に声をかけた。

「うん……でも、実は最近、左腿の痛みが気になるんだ。それさえなければ、もっと記録を伸ばせると思うんだけど……」

「そっか。じゃあ、早く治して、今度の大会ではお互いによい記録を出そうよ。」

「そうだね。最後だし、自己最高記録を出して終わりたいよね。それが目標さ。」

その三日後、

「康雄、大丈夫か？」

あわてて誠は康雄のところへ駆け寄った。

「大丈夫、大丈夫。」

言葉とは裏腹に康雄は痛そうな表情を浮かべていた。康雄がハードルの練習中に足を引っかけたしまい、転倒したのである。以前から気になっていた左腿に瞬間、激痛が走ったような気がした。

「ずいぶん痛そうだね。一度お医者に診てもらったほうがいいよ。」

ろか、自己最低記録が出るかもしれない。いっそのこと、ハードルは出場を辞退しようかな。」

「やっぱり、足が痛むの？」

「いや、何かうまくいかなくて。やっぱり、大会三日前の復習なんかじゃ、間に合うわけないよな。まあ、ハードルはもともと苦手だったし、一〇〇メートル走に専念するのでもいいかなって、思うんだけど。」

「何言ってるんだよ。今まであんなに練習してきたじゃないか。康雄はたまたまうまくいかない自分から逃げたいだけだろ。もう一度、ちゃんと考えたほうがいいって！」

「何だよ。誠はハードルが得意だからそんなことが言えるんだよ。」勢いに任せてそう言うと、康雄はグラウンドを走り去って行った。

次の日は、何となく気まずくて練習には頭を出さなかった。

「ちくちくよう、大会前なのに何やってんだ、俺は。でもなあ……」

人目を避けるように下駄箱の靴を急いで履くと何かが当たった。それは紙切れのようだった。気にせず家までそのまま帰ってきた。玄関に入り、靴を脱ぐとその紙切れには何か文字が書いてある。

康雄の気持ちも考えずにいろいろ言っただめんど。でも、やっぱり俺はお前と一緒に大会に出たい。もう一度、ハードル頑張ってみないか？

誠からの手紙だった。言いたいような複雑な気持ちで康雄を襲う。しばらくその場を動けなかった……

どれくらい時間が経ったのだろうか。康雄は部屋で寝ころんだまま眠ってしまったようだ。ふと目ざめ、何気なくそばにあったノートを見た。

顧問の中嶋先生が心配そうに言った。

「実は康雄、最近、左腿のことをずっと気にしていたんです……」

誠も心配そうに先生に説明した。

「そうなのか。だったら、しっかりと休んで、治すことに専念することが必要だね。」

「えっ。でも大会も近いし、せっかく記録も伸びていたのに……」

「で休むなんてできません。」

「あせってはダメだ。ここで休まずに練習して、これ以上悪化させたら大会当日に出場できないかもしれない。まず、治して、それからまた練習するんだ。医師の診察を受けてみよう。」

その後、誠にも説得され、医師の「要治療」という診断もあって、康雄は治療に専念することを決めた。結局、康雄が練習に参加したのは大会の三日前だった。

「康雄、足、大丈夫か？」

「うん、まだちょっと気になる。でも休んだ分を取り戻さないと……」心配してくれる誠の存在はありがたかったが、自分の目の前で、調子よく走っている誠を見ていると、どうしても焦りが出てしまう。そんな焦りのせいか、必死に練習しても全くうまくいかない。一〇〇メートルハードルは十台のハードルをまたぎ越すのだが、後半に近付くにつれ、失速し、歩数が合わなくなるのだ。

「こんなんじゃないだめだ。最後の大会だっていうのに、自己最高記録どころか、今までの陸上ノートには入部当時の記録やその時々自分の反省が何ページにもわたって記されている。」

（改めて見ると、最初はひどい記録だな……）

康雄はじっと考え込んだ。誠のことや自分の伸びない記録にのみとらわれて、本当は自分自身に負けていたのではないか……

（今度の大会が最後か……）

康雄はノートを持つ手に自然と力が入るのを感じた。大会当日、康雄は一〇〇メートルハードルのスタートラインに立っていた。

（この一〇〇メートルに今までの全てをかける。やり遂げることがまずは大切なんだ。）

「位置について。用意……、パンッ」

雷音の音と同時にスタートを切る。一台目、二台目、三台目……

次々とハードルをまたぎ越していく。

（行ける。もしかしたら、自己最高記録を出せるかもしれない。）

そう思った矢先のことだった。 「あっ、……」左足をハードルにぶつけ、転倒。その時点でもう記録は期待できない。しかし、康雄はすぐに起き上がり、残りのハードルを必死にまたぎ、やっとの思いでフィニッシュ。ゴールには誠をはじめ、部員みんなが心配そうに待っていた。

「痛いよ、痛いよ、痛いよ。」

痛めた足を引きずりながら、照れくさそうに誠たちの輪に入っていく康雄の心の中には、涼風が吹いていた。

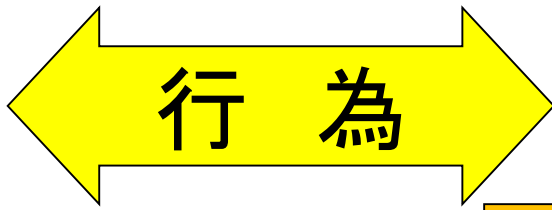


誠からの手紙を読んでしばらくその場を動けなかった  
康雄は、どんな**気持ち**だったのでしょうか。



では、どうする？





行為

### 頑張ってみる

- ・これまで自己最高記録を目指してきたのだから。
- ・康雄がそこまでのうのならば...
- ・けがの影響があることはみんなわかっているから...
- ・最後まで部活頑張っておけば...

自律  
社会律  
他律  
無律

+

動機

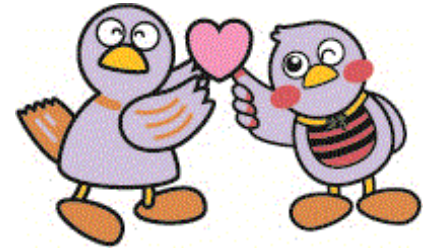
-

### ハードルやらない 頑張れない

- ・今更顔出せない。
- ・やりたいが...
- ・100mなら...
- ・けがの影響と受け取ってくれる。
- ・練習でうまくいかなかったし、3日前復帰では無理。
- ・悪い記録だと評価が...

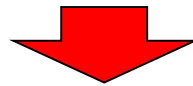
自律  
社会律  
他律  
無律

**指導力を高めるためには**



**横を向く授業**

**友と語り合う**



**理解者は「友達」、そして「自分自身」**

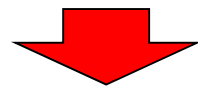
**良質な授業を「見る」こと**

**研究協議会への参加**

**指導力を高めるためには**



**道徳教育推進教師を中心とした指導体制**



**他の教師などの協力を得ることも**

**複数の教職員による学年全体での授業も**

**環境整備（学年会・グッズ）**

## 4 道徳科の評価

### (1) 評価の基本的な在り方

記述式とすること



大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること

いかに成長したかを積極的に受け止め、励ます  
個人内評価として行うこと

学習活動に着目して、学習状況や道徳性に係  
る成長の様子を継続的に把握する

## 「道徳」の評価はどうか？

Q

道徳が「特別の教科」になり、入試で「愛国心」が評価されるというのは本当ですか？  
道徳が評価されると、本音が言えなくなり、息苦しい世の中にならないか心配です。

A

**道徳科の評価で、特定の考え方を押しつけたり、入試で使用したりはしません。**

「特別の教科 道徳」※では、道徳的な価値を自分のこととしてとらえ、よく考え、議論する道徳へと転換し、特定の考え方に無批判で従うような子供ではなく、主体的に考え未来を切り拓く子供を育てます。

※「教科」とは、教科書を使用し、教科ごとの免許があり、教員による評価を行うものを指しますが、道徳については、教員による評価を行わず、担任が担当す

**「国や郷土を愛する態度」などの個別の内容  
項目の評価はしないので、**

- 「教育再生実行会議」の第1次提言や中央教育審議会答申等を踏まえ、「道徳の時間」を「特別の教科 道徳（道徳科）」とし、抜本的な改善を図ります。

**「愛国心」を評価することなどあり得ません。**

- 道徳科の学習状況や成長の様子を評価し指導の改善に生かしますが、入試には使いません。
  - ・ 道徳科の評価については、これまで国会などでも何度も丁寧に説明しています。

**入試で活用したり、調査書(内申書)に記載  
したりはしません。**

議論をまとめた上で、都道府県教育委員会等に周知・指導します。

(文部科学省初等中等教育局教育課程課)

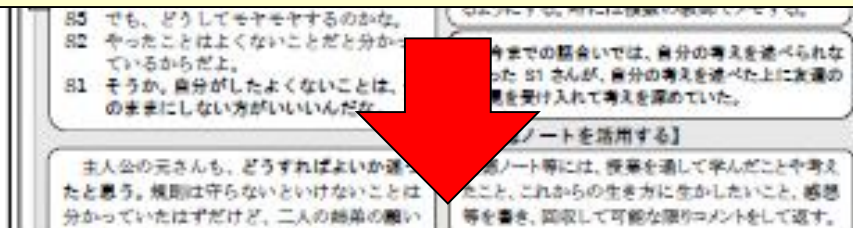
## (2) まずはここから



- ①授業改善の先に評価がある  
歯ごたえ→手応え→口ごたえ
- ②「評価資料」を読む！  
→評価だけでなく授業改善に
- ③根拠は大切  
→授業記録(子供の様子も)  
ワークシート等の蓄積



児童生徒の発言、話し合いの様子、道徳ノート、作文、感想文、アンケート、役割演技、児童生徒の自己評価、生徒同士の相互評価、授業記録、板書記録、等から継続的に把握



授業で扱う内容を常に自分のこととして捉え、人としてよりよく生きるために、どのような心をもつべきかについて話し合う姿が見られました。例えば、〇〇を活用した授業では、～

【1学期の授業を通じて、真実に自分の生き方を見つめ、人としてよりよく生きていこうという思いを道徳ノートに記述していました。】

# 埼玉県小学校教育課程実践事例（道徳）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/kyouikukatei/doutoukujissenjirei.html>

## 本時の板書

人がに命を  
 手塚治虫

シリーズの  
 作品は  
 木々に  
 おきのほ

とつとなく  
 大きな作業

目覚める

一緒に  
 がらぼう

日本の  
 テレビアニメの  
 生みの親

笑顔 感謝  
 夢 あきらめない  
 努力 希望  
 挑戦 目標

不安 恩返し 自分名前  
 やめようか やり続けよう  
 支えてくれる人 広める  
 やめようか やり続けよう  
 決意 後悔  
 一緒に  
 細心得 好きなこと 楽しませたい  
 みんなのこと 自分で決めたこと 支えてくれる人  
 お金も体カシ

C

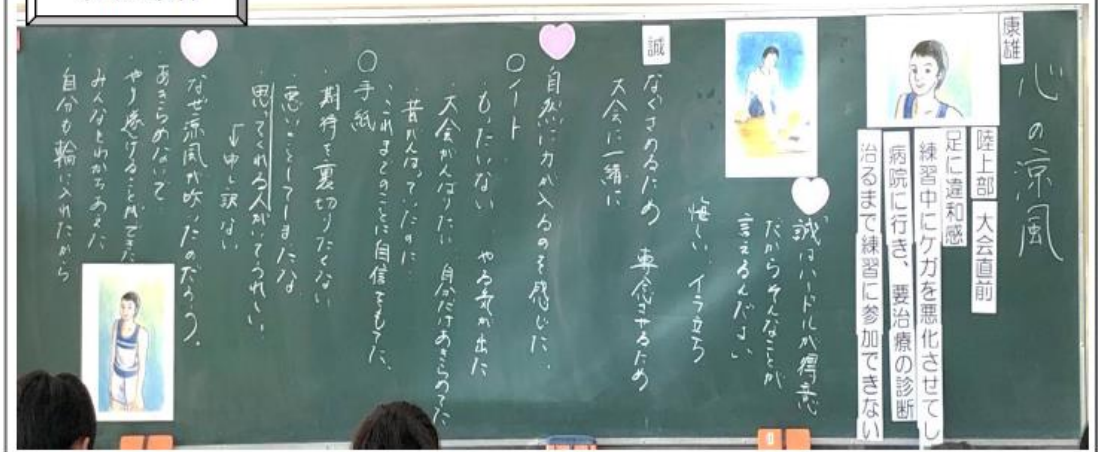
# 埼玉県中学校教育課程実践事例（道徳）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/kyouikukatei/tyuugakkoudoutokujissenjirei.html>

本時の学習を通して、真摯  
ることへの考えに変化が

授業を始めた時は、  
たところでは、自分が  
なとあるのかと思  
た。しかし、今回の  
他の人の意見を聞い  
成長につながること  
視野を広げること  
自分の役に立つので  
なという考えに変わ

本時の板書



## 5 他の教育活動との関連

4月	特別活動	・単元名「一年間の目標を立てよう」 一年間の目標を設定し、達成するための努力について考えさせる。
5月	体育科	・単元名「陸上（ハードル走・走幅跳）」 練習を積み重ね、コツをつかみ、自分の目標を達成させる。また、仲間の動きから記録を伸ばそうとする心を育てる。
7月	道徳科	・教材名「尾高惇忠が目指した富岡製糸場」 目標の達成を目指し、前向きな考えをもち、現実をよりよくしようとする

# 平成30年5月22日 教義指第311号 「特別の教科 道徳」における評価について（通知）

別紙

## 「特別の教科 道徳」の実施に伴う評価の記述について

「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）は、小学校で平成30年度、中学校で平成31年度から全面実施となり、指導要録や多くの学校が作成している通知表において、評価が記述されることになる。

道徳科の評価を記述する際は、以下の点に十分留意しながら児童生徒のよさを積極的に認め、励ます評価とすることが大切である。

### 1 道徳科の評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

（小（中）学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）

### 2 道徳科の評価を記述する際の留意事項

#### （1）道徳科の授業における様子について記述する

道徳科の評価欄には、道徳科の授業中において見られた児童生徒の学習状況や成長の様子を記述することとし、それ以外のことは記述しない。

なお、道徳科以外において見られた児童生徒の道徳的行為や道徳的習慣については、指導要録であれば、従来どおり「行動の記録」や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄を、通知表であれば、「所見欄」等を活用する。

#### （2）道徳性を安易に評価しない（随機随在である「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」を含む。）

道徳科は道徳性の育成を期して行うものだが、道徳性が養われたか否かは容易に判断できるものではないため、児童生徒の道徳性を安易に評価することがないようにする。また、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度は相互に関連し合っており、切り分けられないものであるため、これらを観点別に分析的に評価することは妥当ではない。

【誤解を招きかねない表記の例】

- ・～について、～という発言が見られたことから思いやりの気持ちが育ってきた。
- ・以前に比べて、友情を実現するための判断力が、だいぶ高まってきている。
- ・道徳的な心情は育ってきているので、今後は、実践していこうとする意欲も高めていけるとよいでしょう。

#### （3）学習活動に着目して評価する

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」という道徳科の目標に掲げる学習活動における取組状況を見取る。その際、「多面的・多角的な見方へと発展しているか」、「道徳的価値についての理解を自分自身との関わりで深めているか」といった点を重視する。

#### （4）大きくくりなまとまりを踏まえて評価する

年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。

なお、通知表に関しては、児童生徒本人や保護者による点や進歩の状況などが具体的に伝わる表記が求められる。大きくくりなまとまりを踏まえつつ具体性のある記述を工夫する。

### 3 その他

埼玉県小学校教育課程指導・評価資料（平成29年3月刊行）及び埼玉県中学校教育課程指導・評価資料（平成30年3月刊行）を参照すること。両資料は、県のホームページ（<http://www.prof.saitama.lg.jp/f2214/kyouikuKatei.html>）にも掲載している。

- ・道徳科の授業における様子について記述する。
- ・道徳性を安易に評価しない
- ・学習活動に着目して評価する
- ・大きくくりなまとまりを踏まえて評価する

豊かな道徳授業を目指して  
～子供とともに～

自ら伸びる力を信じて



子供とともにつくる道徳授業  
子供とともに考える道徳授業  
子供とともに楽しむ道徳授業

プラス思考



開発的発想